

八代にやってくる希少な鳥



ボクたちはとても数が少ないんだ

クロツラヘラサギ

(Black-faced Spoonbill)

東アジアに生息する絶滅危惧種 保全に向けた調査、研究進む

クロツラヘラサギは、東アジアに生息する絶滅が心配されている鳥です。繁殖地は朝鮮半島西側の黄海や中国、ロシアです。3月から6月頃に繁殖期を迎え、寒い冬を乗り切るため日本にも移動してきます。20年ほど前から東アジアで保全に向けた関心が高まり、国際的な調査、研究が進められています。

主な特徴

体長は雄が約81cm、雌が約73cm。サギという名前からサギ類の仲間と思われるがちですが、ペリカン目トキ科に属する水鳥です。長いしゃもじのようなくちばしと黒い顔、足が特徴。くちばしに餌を感じる機能が備わり、水中の魚やエビ、カニなどを探ります。雄は頭に王冠のような羽があり、優雅な姿をしています。



▲クロツラヘラサギとダイサギの群れ

クロツラヘラサギの飛行ルート



クロツラヘラサギは夜渡る!!

クロツラヘラサギは、昼も夜も活動しますが、どちらかというと夜行性。昼間は体を冷やさないようくちばしを羽に収め、1本足で寝ている姿がよく見られます。

韓国のソウルから、夜の18時頃釜山を経由し、夜中の1時半頃に不知火干潟に到着。その朝、八代海沿いに移動したという記録が残っています。

(2020年調べ)

色鮮やかな空飛ぶ宝石



水辺の人気者だよ

カワセミ

(Common Kingfisher)

コバルトブルーに輝く「八代市の鳥」

美しい青い羽が見る人を魅了するカワセミは、八代市の鳥として知られています。繁殖期には、雄から雌にくちばしをプレゼント。この際、雌の口にウロコがつかないよう魚の頭を先にして渡すという、何とも微笑ましい求愛の姿が見られます。



▲雄(左)から雌へ給餌している様子

主な特徴

体長は約17cm。頭から尾の先までは美しいコバルトブルー。おなかは褐色でコントラストが目立ちます。くちばしは長く、黒いのが雄。雌は下くちばしが赤くなっています。ホバリングやダイブをして魚を捕る姿を見かけることもあります。

※空中で停止して飛行すること。

●カワセミ・ヤマセミ写真提供/橋本勝次

球磨川流域カワセミ確認ポイント

(1991～2015年)



冬から春にやってくるカモ科の仲間たち

ツクシガモ類

絶滅危惧Ⅱ類

潜して魚や貝などのエサを採り、海上で大群をつくる仲間たち。

海カモ類

水底にある水草などを食べる時は逆立ちしますが、身体全体を沈めて潜ることはできません。

淡水カモ類

アヒルのようなカモ類は平たいくちばしと短指には水かきを持つ水鳥です。シベリアなどから10月頃飛来し、海上や河口、河川、畑地、湖沼池など身近な場所まで群れを成しています。

ツクシガモ

体長約63cm。くちばしが赤でカラフルな絶滅危惧種の水鳥。動物性食で水に濡れないのが特徴。

ホシハシロ

体長約45cm。雄の頭部は赤褐色で、胸は黒色。体は灰色。雌は全体が褐色。球磨川河口では10月～翌1月に数羽が飛来する。

スズガモ

体長約43cm。雄は頭部が緑色で、背は灰色。おなかは白色。冬には羽の海上で数千羽の群れをつくる水鳥。

マガモ

体長約60cm。雄の頭部は緑色。体は灰色でくちばしは黄色。八代では一番多く見られる水鳥で、球磨川河口で群れを成している。

カルガモ

体長約60cm。ヒナと一緒にいる姿をよく見られる水鳥。全体が褐色で、くちばしは黒く先端が黄色。足は褐色で雌雄とも同じ体色。

ヒドリガモ

体長約49cm。雄の頭部は茶褐色で、頸部は黒い。雌は全体が褐色。ビュービューと口笛のようなおとなの声を鳴く。

アイサ類

ウミアイサ

体長約55cm。くちばしが長く先が曲がっていて、ギザギザしている。潜って餌を捕ることができ、雌には冠羽(かんう)がある。

キンクロハシロ

体長約40cm。八代でも多く見られる水鳥で、頭部に冠羽を持ち、目の周りが金色という特徴的な姿を見せる。雄は黒と白色で、雌は茶色。

ハシビロガモ

体長約50cm。くちばしが大きく目立つ。雄は頭部が緑色、おなかには茶褐色の模様がある。雌は全体が茶色。群れで泳ぐように泳ぎながら餌を採る。

コガモ

体長約38cmの小型のカモ。雄の頭部は茶色に緑、雌は全体が褐色。くちばしは黒色。河川や池でよく見られる。

オナガガモ

体長は雄が約75cm、雌が約53cm。雄はピンと伸びた長い羽尾を持ち、胸からおなかにかけて白色。雌は全体が褐色。

ヨシガモ

体長約15cmの小さな水鳥で、くちばしは平らでへら状になっています。世界で100～200つがいしか生息しない希少種といわれています。そのヘラサギが熊本県では1970年以降、55例の飛来が確認されています。球磨川河口では9月頃に飛来することが多いようです。この姿を見つけたらラッキーかも!



八代野鳥愛好会

お申込み・お問合せ ☎090-3328-4970 (高野) 八代野鳥愛好会

鳥を通して環境を考える

八代に暮らす鳥好きが集まり1987年に発足。鳥に親しむことで会員同士の親睦を深め、野鳥と人との共生を目指して活動を行っています。

世界で100～200つがいしか生息しない希少種!

ボクを覚えてね!!

絶滅危惧ⅠA類

ヘラサギ

体長約15cmの小さな水鳥で、くちばしは平らでへら状になっています。世界で100～200つがいしか生息しない希少種といわれています。そのヘラサギが熊本県では1970年以降、55例の飛来が確認されています。球磨川河口では9月頃に飛来することが多いようです。この姿を見つけたらラッキーかも!

絶滅危惧Ⅰ類

絶滅の危機に瀕している種

- 絶滅危惧ⅠA類……ごく近い将来における野生での絶滅の危険性が極めて高いもの
- 絶滅危惧ⅠB類……ⅠA類ほどではないが、近い将来における野生での絶滅の危険性が高いもの
- 絶滅危惧Ⅱ類……絶滅の危険が増大している種

(環境省レッドリストより)

水辺の鳥の物語

川と干潟は鳥のユートピア

豊富な餌場が残る球磨川河口 絶滅危惧種の鳥たちも飛来

よく見てみるとくちばしの形(長さ)が違い、中にはセンサーのような機能が備わっている鳥もいます。その形によって餌の取り方が変わるので自然と餌場のシェアリングを行い、生態系を維持しているのではありません。

自然界の生き物たちとの共生 私たち人間に投げかけられた課題

1971年に水鳥を食物連鎖の頂点として湿地の生態系を守る目的で国際会議で制定されたラムサール条約。この条約には、県内では荒尾の干潟が登録されています。球磨川河口の干潟も登録候補に名を連ねていますが、「鳥たちが安心して暮らせる場所には、私たちの暮らしがなくてはなりません。希少生物の保護と経済活動が共に折り合いをつけないと両輪で進むことが大切です」と高野さんは強調します。

私たちがいかに鳥たちとの共生を考えていくのか。行政はもちろん住民一人ひとりに投げかけられた課題なのかもしれません。



高野 茂樹さん

1947年、八代市生まれ。八代高校、熊本大学理学部、同大学院修士課程卒業。県立高校教諭などを経て、1987年「八代野鳥愛好会」を発足。日本クロツラヘラサギネットワーク代表。定年退職後に熊本大学で博士(理学)取得。



チドリ類

短い嘴が特徴。視力がよく、餌を見つけて走り寄って捕まえるのに短い嘴が適している。

長い嘴が特徴。まっすぐ/上に曲がる形/下に曲がる形など、種類によって形状は様々。干潟の泥の中にある餌を感じし、長い嘴を差し入れて餌を採る。

嘴の形、体の大きさ、足の長さなどによって餌を採る場所が違うから「共存」できんだ

シギ類

体長約30cm。黒い短くくちばしと黒い足が特徴。冬場はおなかの白い羽が、夏になると顔からおなかにかけて黒くなる。

体長約60cm。下に曲がった長いくちばしを持つ大型のシギ。くちばしが鋭く、カニやアナジャコを食べる。春と秋に見られる。

体長約40cm。くちばしは長めで少し上に上がっている。青い足が特徴。背中は黒でおなかは白。春と秋に見られる。

体長約25cm。黄色い足が特徴。くちばしは真っすぐで、カニやエビなどの甲殻類を好んで食べる。春と秋に球磨川河口で見られる。

体長約21cm。八代海で一番多く見られる種類。数千羽で群れることが多く、夏場はおなかの部分が黒くなり、越冬期は白くなる。

シギ類

体長約17cm。くちばしは短く、おなかの白い羽が特徴。冬場は上から赤褐色の羽が見られ、冬は灰色になる。秋に多く見られる越冬鳥。

体長約28cm。くちばしは長く、ゆっくり動く。夏は上面に赤褐色の羽が見られ、冬は灰色になる。おなかの白い羽が黒目が見られる。

体長約13cm。体重が20gと小さな体ながら、移動距離は約1キロというエネルギーが豊富な鳥。頭から尾は茶色でおなかは白色。

体長約42cm。下に反ったくちばしを持つ大型のシギ。全身褐色だが、飛んでいるときには腹の白色が目立つ。春に多く見られる。

体長約23cm。黄色の足と上に反ったくちばしの特徴。球磨川河口で多く見られ、満潮時は水場にいることが多い。カニをよく捕食する。

球磨川河口の生き物たち 豊かな餌場の干潟がつくる生態系

河口にはどんな生き物がいるかな?

干潟を安全に楽しむためには、目的に合わせた準備をして出かけましょう。生き物は潮の満ち引きで場所を移動します。潮見表をチェックしておくといいてしょう。また、岸から観察する

際は日陰などが無いので、帽子や長袖シャツ、飲料水などを準備して熱中症対策を万全に。お子さんが観察する際は、必ず大人同伴で出かけましょう。

観察会などを除けば、干潟には許可なしに入ることはいけません! 岸の上から観察するようにしましょう。

観察用に準備するもの

- 生き物観察: 双眼鏡・スコープ・図鑑・カメラ・記録ノート・バケツ・ふるい・ルーペ・ピンセット など
- 植物観察: 図鑑・ルーペ・記録ノート・カメラ など
- バードウォッチング: 双眼鏡・望遠鏡・図鑑・カメラ・記録ノート など